

私も、とらうみさん応援に動きます！！

ー肥田舜太郎さんから力強いメッセージー



「うらわ宿」編集部では、10月21日野々垣会長とともに浦和区瀬ヶ崎にお住まいで今年97歳になられる医師の肥田舜太郎さんを訪問し、現在のホットな話題についてインタビューをお願いしました。肥田さんは、今尚、日本全国各地から講演の依頼を受けて、核兵器廃絶、原発の危険性、内部被曝の危険性を訴え続けておられます。紙面の都合で、今回は原発の危険性について、そして来るべき市議選での共産党への期待について掲載させていただきます。

原発被害から身を守るのは人権を守る闘い

1945年8月6日、原爆が投下された場所から6kmにいた軍医の時から被爆者であると同時に、生々しい被爆者をずっと診てきた医師として、少しでも長生きさせるという仕事をしてきました。その邪魔をしたのが米国の占領政策と核の恐ろしさを隠蔽してき

たことです。その二点が私の人生を決定的なものにしました。当時そのことを一貫として追求していたのが共産党しかなかったので、その時から共産党の立場を支持しています。目の前に原爆の被害者があらわれて、医師として助けなければならない。しかし被爆していることはわかっているのに、原因と治療方法がわからない。前例がないので、何年たってもわからない、誰も教えてくれない、でも助けなくてはならない、その矛盾にずっと立たされてきました。アメリカは爆弾をつくった国でありながら、都合の悪いことは隠している。内部被曝についても、害はないとウソをつく。そのウソの証拠を立証することができない。わかりやすい形で立証できない。裁判になっても裁判長から、そんなに熱心に言うなら証拠を出してください、と言われるが証拠が出せない。辛いことでした。今ようやく内部被曝についても国民が徐々にわかってきました。全国の発電所から核のゴミが出され、プールにおいておくほかはない。人類はいま、放射能を前に、核をコントロールできるのか、どこまでいってもコントロールできず人類が滅びるかという岐路に立たされていると思います。原子力発電所から出る水と煙が危険なのです。アメリカの実験でわかったのですが原発は100マイル、160KMまでは放射線がとどきます。日本では各地の原発を中心に半径100マイルの円を描くと日本全体が原子力発電の危険範囲にすっぽり入ってしまいます。原発は廃炉にするしかない

平和賞 とつたら困る 安倍総理

スネにきず みんなありそう 自民党

安倍安倍と 政府宣伝 NHK

川柳 岸町・だん吉

のです。日本人の弱点は政治家も企業人も公務員も多くの場合、長いものにまかれるというところ。自分の命を守るといふことをもっと大切にしなければなりません。私はどこの講演でも、これは人

権を守る戦いであると言いつけています。長い間感じてきたことですが、日本は人権意識が乏しいということです。人権を侵された場合、命がけで人権を守るという意識で語る人がいない。最近少しは変わってきたと思いますが、まだまだです。

人々の心に届く政治を、 とりうみさんに期待します。

足がやや弱りましたが、来る市議選、県議選には是非私も引っぱり出して下さって結構です。どこへでも行って応援します。共産党にはもっともっと伸びて行ってほしいと思います。ただし、ただ単に革新とか社会主義とかということではなくて、訴えたいことが、皆さんに十分伝わる工夫が必要です。安倍内閣や自民党の政治のさまざまな問題について、単に予算が削減されたから問題だというだけでなく、具体的にどう大変になっているかを実感して、自分の言葉でどう伝えるのが大事だと思います。もし今までの活動で不十分なところがあったら、そこも素直に反省して、その上にとって、こういう風にしたいので又よろしく願います、と訴えて歩けば、「NO」という人はいないでしょう。とりうみさんは、長年の実績に加えて、今一度その原点

にたつて地道に取り組んでいって欲しいと思います。一緒に歩きますよ。(まとめ 古澤)

バーベキュー大会

元町後援会：関内 筈一郎

来春のいっせい地方選挙まで、残り6ヶ月となる、10月19日(日)、とりうみさんの必勝をめざし、秋の味覚を楽しみながら、大いに語り合いました。本太3丁目のOさん宅の駐車場をお借りして、後援会の皆さんの事前の準備・ご協力もあり、お肉や野菜などの準備は、女性陣が活躍し、男性陣は、器具の運搬、焼き方等で協力しました。H会長の挨拶に続き、とりうみさんから、安倍内閣の暴走一集团的自衛権の行使容認の閣議決定、秘密保護法の12月施行の閣議決定、消費税増税、原発再稼働、米軍基地建設の強行、さらに「政治とカネ」をめぐる閣僚の辞任など、安倍内閣と国民との矛盾が大きくなっていると報告。

また、地元浦和区の取組みや勝利への決意表明があり、参加者からも激励の発言が相次ぎました。日頃から顔なじみの皆さんが多かったのですが、ご夫妻での参加もあり、和やかななかにも、とりうみさん必勝への意気があがった一日でした。引き続き、後援会として元町、本太、駒場の地域要望実現の取組みを行うことを確認して、散会しました。地域の皆さん、ご協力ありがとうございました。



「うらわ宿」後援会読書会

領家後援会：針谷 努

ニュース「うらわ宿」を、地域のふれあい、助け合いの後援会活動にという思いで、10月22日、午後のひと時を生協領家店集会室において、うらわ宿領家読者会を持ちました。今回は領家2、5、6丁目の方をお誘いし、9人の方が参加。当初お茶会でしたが、ワカサギてんぷらの差し入れがあり、急遽ビールも入っての楽しいおしゃべり会となりました。

うらわ宿の会長である野々垣さんから来春の一斉地方選挙における鳥海さんの議席回復を

の挨拶に始まり、領家の昔話や個人の思い出等を交えた自己紹介で予定した時間があっという間に過ぎてしまいました。集会室には調理設備があり、忘年会や新年会もできるねと今後のつどいにも花が咲きました。

皆さんいろいろな人生経験や趣味をお持ちであり、知恵や知識、お役立ち情報等を交流しあい、楽しく・知的に過ごせる地域のおしゃべり会になればと考えています。

参加された皆さん、お疲れさまでした。



特集 ー防災対策は大丈夫かー

基本は、行政、自治会、避難施設の三者連携

前地：古澤 英二

9月1日の防災の日を皮切りに各地で自治会を中心に防災訓練の行事が行われていることとします。今年8月の広島市土砂災害、台風18号、19号の浸水災害、そして御嶽山の火山災害と大きな災害が続きました。さいたま市はこうした災害を免れています。いつ災害にあうかわかりません。そこで編集部ではさいたま市や浦和区の防災対策はどうなっているかと知りたいたいと思い、本太1丁目自治会の防災委員長の小川さんの協力を得て、さいたま市役所を訪ね取材してきました。

今回は防災の第一段階として、次の2点を提案したいと思います。

年金を
次々下げる
冷たさよ
われらに早く
死ねと叫ぶのか

狂歌
岸町だん吉

第一に、災害対策、防災の基本は、行政、自治会、避難施設の三者の密接な連携が必要との理解が大事だと言う

ことです。避難場所はどこか、周辺に避難困難者はいないか、ケガをした場合はどうやって搬送するか等、どれをとっても三者の連携がなければできないことです。地域での避難訓練や防災訓練には積極的に参加してほしいものです。地域でのコミュニケーションを良好にしていく元にもなります。

第二に、さいたま市や浦和区の防災対策がどうなっているかを知ることです。自治会を通してでもいいですし、直接市役所や区役所を訪ねて説明を受けるのもいいでしょう。そして家庭内で、家族で対策も話し合っておきましょう。

参考にさいたま市、浦和区が発行している主な資料をあげておきます。

- ① 「さいたま市防災ガイドブック／家族で話そう防災のこと」…災害発生時どうしたらよいか、前もって準備しておくこと等が書かれているガイドブック。家庭保存版です。
- ② 「さいたま市洪水ハザードマップ」…河川が洪水などで氾濫した時の影響範囲など

を地図化したもの。(利根川・江戸川)、(綾瀬川・元荒川・大落古利根川・新方川)、(芝川)、(鴨川・鴻沼川)の4つが出されていますが、浦和区は(芝川)と(鴨川・鴻沼川)が該当します。

- ③ 「さいたま市浸水(内水)防災マップ」…河川のはん濫でなく、下水道など排水施設が限度を超えた場合に起きる浸水を地図化したもの。

これらの資料は区役所で貰えます。また防災について更に詳しく調べたい場合は、さいたま市の下記サイトを参照してください。

<http://www.city.saitama.jp/001/011/004/index.html>

尚、防災については、後援会としてもひきつづき今後の研究課題としていきたいと思えます。防災に関心のある皆様のさまざまなご意見をお寄せいただければ幸いです。



《編集後記》
 さいたまクリテリウムが10月二五日、さいたま新都心において開催された。主催者側では昨年より多いとのこと。なんとこのクリテリウムに三億の税金が投入されたようだが、いかほどの経済効果があったか疑問である。それよりも、市民の安全に税金を使用して欲しいものだ。それは自転車教育である。日頃より『人は右、車は左』の交通ルールの大原則を周知徹底させることである。自転車は軽車両であるのに、平然と右側通行、二人乗り、携帯電話で会話、片手で傘差し、イヤホンでの音楽、一人で横並び通行、無燈、飲酒運転とこのほかにもあり、いかに自転車乗り方マナーの悪さが目立つ。小学校で自転車教育をしているようだが、加えて中高生にも教育をして頂きたい。また市民には広報さいたまの紙面に乗り方のルール、歩行者のルールを掲載して欲しいものだ。自転車は身近な乗り物として便利なものである。その反面、危険も潜んでいる。共産党市議は身近な問題を取り上げ、住みやすい街づくりにご活躍されているのは承知している。安心の街、さいたま市を目指し限らない応援をしたものだ。ツール・ド・フランスの選手を招待して、はしゃいでいるのは市長、あなただけです。税金を有効に使えと市民と共産党市議団から糾弾されますよ！

《幹》

浦和区後援会ホームページへのアクセス <http://urawaku-kouenkai.jimdo.com/>

俳句

領家・浦和太郎

山里の巡業相撲や秋深し

わが胸のほてるものあり爛の酒

朝露を踏みて山門くぐりをり

一つ家の崖の上なる柿すだれ

牛小屋の夕暮れ早し烏瓜

それぞれの五百羅漢や赤とんぼ

★街角だより★

鍼・灸・マッサージ専門
 おおもい治療院

年を重ねると体にも不具合がおきてきます。そんなとき、身近な所で親身な相談、治療を施してくれるところです。大森嵩久院長は、浦和北九条の会の若い世話人です。大森院長は、鍼・灸・マッサージ3種の国家資格を保有し、全国鍼灸師協会埼玉支部理事です。在宅訪問治療もやっています。

予約優先制ですので電話予約をするといいです。駐車場は、院前に1台分あります。

場所:常盤3-16-3サクラビル1F

北浦和駅西口徒歩5分

TEL/Fax:048(831)6887